

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記述式。一部客観式。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

2018年度は1,657 wordsであったが、2019年度は1,502wordsに減少した。

出題の特徴

- ・1,500～1,800語の長文一題。例年、医学・生物学に関係のある内容。文体はジャーナリズム的。語義選択、内容真偽、和訳、英問英答、要約問題などが出題されているのは例年通り。2018年度にひきつづき、医学科と歯学科受験者は大問3、4、5、6に、保健衛生学科と口腔保健学科受験者は大問1、2、3、5、6に答えよという指示が付されている。
- ・要約問題はここ9年続けて「400字以内」で安定している。キーワードを3つ盛り込むことが要求される。
- ・大学入試では標準的ではない単語が散見されるが、語注が付いていない。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など) → [6] 思考力・判断力・表現力

Cable News Network(2018年5月5日)に掲載された“Can the building industry break its addiction to concrete?” (Thomas Page) からの出典であった。コンクリートに関する問題点と、その解決策について400字でまとめるには、全文を網羅的に理解し、問いの要求に合わせて情報を取捨選択する必要があるため、やや時間を要する。

<大問分析>

| 番号 | 区分 | 出題分野・テーマ | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど) | 難易度 |
|-----|------|----------|---|-----|
| [1] | 読解総合 | 語義選択 | 難度の高い単語はなく、標準的な語彙レベル。 <i>equivalent</i> は文脈をよく理解する必要がある。 | 標準 |
| [2] | 読解総合 | 指示語記述 | <i>Answer using one to five English words that can replace the underlined word.</i> という指示が付されていることに留意する必要がある。 | 標準 |
| [3] | 読解総合 | 内容真偽 | 本文との緻密な照合が必要となる。 2018年度同様、小問数は24問。 | 標準 |
| [4] | 読解総合 | 英問英答 | <i>in your own words</i> という指示があるので、キーワードは可能な限り言い換えをする方が望ましい。 複数の内容が求められているので、10語から25語という指定語数で解答を書くのに苦勞する。 | やや難 |
| [5] | 読解総合 | 英文和訳 | 標準的なレベルの問題なので、失点は避けたい。 (ア) many proposed solutions や doing away with it などの訳出に工夫が必要。(イ) here to stay は熟語であるが、文脈を考慮した訳出が求められている。 ダッシュの処理にも工夫が必要。 | 標準 |
| [6] | 読解総合 | 要約 | 字数内に収めるのに工夫が必要。「セメント製造過程におけるCO ₂ の排出に関する問題点と、その解決策としてセメントの代替物」に焦点をあて、複数の情報を取捨選択する判断力が求められている。 | やや難 |

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

*The New York Times*等の新聞を用いてジャーナリズム的文体に慣れたり、*Scientific American*, *Science*等の雑誌に掲載されているような論文を読んだりして日頃から練習しておくこと。もちろん、そのためにはしっかりとした構文・文法力、単語力が要求される。内容真偽問題や英文和訳問題ではあまりミスをしたくない。合否を分ける最大のポイントは最後までしっかりと読んで、要約文を書ききれるかどうかである。長い英文を読む場合は、時間と字数を定めて論点を絞ってまとめる練習が必要である。その際に、パラグラフごとに簡単なコメントを記しておく、英文の内容がまとめやすくなり、内容真偽問題の吟味にも役立つ。それに加えて、英問英答での確かな答案が自分の英語で書けるように、日頃から言葉の言い換えなどに注意して英語表現力をつけておこう。